



R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2007 - 2008 年度 RI 会長 ウィルフォードJ.ウィルキンソン
魚津 R.C 会長 谷川 文紹

2008年 1月11日

第2614回 例会報告

ゲスト並びにビジター

本元 義明 様 魚津市立大町小学校 校長

誕生祝

根岸 朗君 1月18日



本日は私の誕生祝いありがとうございました。来期はガバナー補佐として皆さまのご協力をお願い申し上げます。それ以外にも地域の役職や業界の役職を持っており、「一年を大事に」の気持ちを持ち老体にむち打って頑張りたいと思います。そして、魚津ロータリー・クラブの“ソコジカラの範”を富山第一分区のメンバーに示したいと思います。

会長挨拶

本日、幹事の寺崎君は体調不良のためにお休みです。今年は感染症によるインフルエンザや細菌性の風邪が流行しております皆さんもご注意願います。過日、青年会議所の記念式典に招待者として出席いたしました。総勢約100名の出席があり、大変に立派な式典でした。その際に祝辞を述べる機会があり挨拶の中で満40歳に青年会議所を卒業された折には、是非当魚津ロータリー・クラブに入会されますようにと申し上げてきました。本日の健康講座は休講といたします。

幹事報告

屋外奉仕時の着用ジャンパーの代金をお支払でない方は至急支払をお願いします。

出席報告

出席者 30名 出席率 83.33% 2612回出席率 88.23%修正なし

ニコニコボックス

生駒 晴俊 君 お正月に生駒ファミリー - が13年ぶりに勢揃いいたしました。

宮本 汎 君 本日のゲスト卓話に熱血校長を迎える喜びから。

若井 克貞 君 なんとなく良いことがあったので。

委員会報告

釜山釜一委員会 4月中旬には訪韓する予定ですので多数の参加をお願いします。

ゲスト卓話

「一枚の地図から」本元 義明 様



広田寿三郎先生が作られた「魚津の絵ほどき歴史」という本の裏表紙に一枚の古地図が載っており、これが「越中魚津町惣絵図 天明五年乙巳年三月相改上之(1785年)(魚津市立図書館蔵、魚津市立歴史民族資料館展示)」で、旧魚津町は古城を中心にして発展した城下町であることが分かります。

1. 自校での研修や学習 平成18年4月小生は大町小学校勤務になり、

4月末に遠足があるので高学年の遠足指導計画が中旬頃に回議されてきた。上越市方面となっており、我が校には「武士の鎧の袖をかたしきて枕に近き初雁の声」と上杉謙信が詠んだ歌碑があり、春日山方面を訪ねるものと思って見ましたら、ありません。6年生はこれから社会科で戦国時代を学習するので、春日山は格好の学習材料になるはず。この時、先生方の研修や子供達を学習する必要性を感じ、思い出したのが前述の本である。郷土学習用に編集された本で、老若が楽しめる優れたものです。この本から石碑や歌碑の資料の他に裏表紙にあったあの古地図も用意した。先生方の研修や子供達の学習では石碑や歌碑にちなんで戦国時代の話とその後の魚津の発展の歴史を

この古地図に託したのです。古地図の中央にある「古城御蔵屋敷」が現在の大町小学校であること。堀跡等は現在影も形もありませんが、学校周辺の道路や寺院などは今も殆ど変わらずに残っていること。この古地図一枚で今でも大町地区を歩くことができること。

2. 公民館等の動き 当校へ赴任後、公民館の歓送迎会の折「ここは城下町で、200年前の江戸時代の古地図で今でもこの町を歩くことができます」と地域の皆さんに話しました。翌日、早速公民館の方から学校外活動で大町地区を探検する「ウォーク&ラリー」に歴史的な遺跡探検の視点を追加するために「その地図をいただけませんか」と要望があった。また大町地区地域振興の一環として市職員が一名配置され、城下町を意識した事業が盛んに計画されるようになり、大町海岸公園に設置された歴史的な文化遺産に恵まれた看板もその一つである。その看板の中には今の大町地区の地図だけでなくあの古地図も江戸時代の大町地区を知る資料として盛り込まれています。また公民館長の「魚津城下みてあるき」研修講座も大町地区の豊かな歴史性を活かした地域振興事業の取り組みです。地元商店街も魚津城下をテーマにして街興しを企画しておられます。

3. 魚津市への初赴任教員対象の市郷土研修会 小生は、教員研修の講師を五年ほど前からやっており、以前は、史跡として松倉城とその支城群(升方城址・石の門)天神山城址・高円堂用水等を見学していた。18年度は熊の出没の心配もあって、「城下町魚津」をテーマに歴史的研修を組んでみる事にし、校区に残る古い道、寺などを巡る研修にした。受講生の反応は「何気なく見ていたものの中に歴史を感じるものがあるのに驚いた」と言うものが殆どであった。しかし、その後、自校の校内研修や児童の学習の講師を頼まれたが、どうも研修や学習としては、一方的で注入タイプのものにしかならず、どこか物足りないものがありました。そこで今年の郷土研修会で校区の半分をエリアにして「古地図」にあるもので、今も残っているものを探すという活動にしたわけです。先生方が自ら歴史的な遺産を探すという活動を通して児童生徒が主体的に歴史学習を進める活動を模索したからです。一枚の古地図を見ながら先生方が嬉々として古いものを探しておられる姿はこれからの教員研修の在り方、その教員研修の先に見える子供への歴史学習の在り方を示唆できるもので先生方にも好評でした。歴史とはイマジネーションつまり想像の世界。歴史的遺物等から想像力を巡らせて、体験できない当時を創造する事だろうと考えている。歴史を学ぶということは探求型、体験創造型、参加型の学習でなければならない。その意味で先生方との郷土研修の取り組みは、子供の歴史学習に限らず、郷土を素材にした学習の方向性を確信させるものであった。

4. 参加型、体験型学習の模索 4年生の学習で「校区に残る古いもの探し」でこの古地図を、「魚津大火の跡を訪ねて」では焼けた地域の地図をそれぞれ頼りにし、自分達の力で「今も残っているもの」を探す学習を行い、歴史を探るときの取材の在り方を直に体験することができ、実感を伴う学習にすることができた。その後歴史的な遺産である大町地区を知る地域学習を、全校縦割り班遠足の形で計画した。内容は公共施設、事業所、商店、歴史的なものなどを調べたり、体験したりすることにしました。3週間ほどかけて自分達でグループの見学計画や交渉もやらせ、当日は6年生を中心に低学年のことも配慮しながら粛々と活動し、子供の主体性を尊重し、学習を子供のことにしてゆくには、参加型、体験型スタイルが必要だと実感出来る取り組みだったと思います。

5. 「魚津城址に輝く大町小学校」の看板 本校は魚津城の跡にあるが、それを偲ぶ物は殆どありません。「魚津城址の石碑」と「上杉謙信の歌碑」古城にあったと言われる「ときわの松」ぐらいです。今夏、現在の大町地区と古地図の新旧二枚の地図を盛り込んだ「魚津城址に輝く大町小学校」の看板を、ときわの松の下と魚津城址の石碑の脇、総合庁舎前の入口に設置した。地元商店街や公民館の「魚津城下」の取り組みが紹介されたこともあって本校を訪れになる方が増えてきております。